

報 告

キリスト教保育の現場における聖話のあり方 —子どもの心に残る神様のお話し—

松尾 裕美

〈抄 録〉

幼稚園や保育園など多くのキリスト教保育を行っている教育の現場で、新人保育者や未信者の保育者にとって「礼拝」の中で行う聖話は大変難しいという声を聞く。また敬虔なクリスチャンを始めキリスト教保育の経験者からは、「どのようにキリスト教保育を伝えて行ったらよいか」という悩みもあり、その方法も様々である。

本稿では、双方より抱える課題を整理し「聖話」について考える。子どもの心に残る神様のお話しについてまとめた。A市内のキリスト教保育者の試みを参考に、キリスト教保育を行う者として大切にしなければならないものを再認識する。

キーワード：キリスト教保育、礼拝、聖話、新人保育者、神様のお話し

I. はじめに

ここ20年の間にキリスト教保育を行っている保育の現場は大きく変化してきている。母体である教会と幼稚園、保育園の関係も20年ほど前は教会付属の園が多くあったが、今日では、学校法人化、社会福祉法人化に流れが変わり、日曜学校での子どもの人数も少なくなってきた。また、幼稚園と保育園では子どもの人数にも二極化が進み、保育園では入園希望者が多く、幼稚園では少なくなり、ここ数年でもキリスト教保育を行っている幼稚園が閉園に追い込まれることがあるのは事実である。その原因も様々であり、出生率の低下、母親の自己認識の変化や社会進出等で育児に対する考え方の変化に見ることができる。また、通園バス、給食、預かり保育の充実も母親サイドからの要望が強くなってきていることも挙げられる。今日のキリスト教保育の重要性を考え、本稿では、新人保育者のキリスト教への入門から子ども達に対して行う「聖話のお話し」を考える。

II. 現在のキリスト教保育指針

キリスト教保育を行っている乳幼児教育の現場で、キリスト教保育連盟が発行している「キリスト教保育」を保育テキストとして使用している園も多い。そこで、ここ数年間の「キリスト教保育」の年主題を調べてみた。2010年の主題は表1. の通りである。

2010年は、年主題として、希望一愛の中を生きる一、聖句として「主よ、あなたはわたしの希望」詩編71篇5を挙げている。大澤秀夫氏¹⁾によると、“聖書の他の部分が、主として神さまから人間に向かって語られている言葉であるが詩編は人間から神さまに向かって語られた言葉であり、詩編は祈りの言葉、賛美の言葉”とある。2010年の主題聖句は祈りの言葉であることを説いている。新人の保育者にとって祈ることの意味を説いている。また、“心配そうな顔をしている小さな子どもに向かって、「いつでも呼んでね。なんでも聞いてね。あなたのことはどんなことでも引き受けるからね」と保育者が声を掛けると、子どもにとって安心の場所・人となるそのために、祈りが必要”とある。新しくキリスト教保育者として用いられた者も必

表1. 2010年キリスト教保育主題

年主題 希望—愛の中を生きる—

月	1歳～5歳児の月主題	1歳～5歳児の月のねがい
4月	安心する	新しい環境の中で友だちや保育者に出会う
		保育者に親しみ、安心して過ごす
		友だちや保育者との出会い、神さまとの出会いに安心する
		心地よい環境の中で、自分の居場所を見つけ、園生活に期待をもつ
5月	動き出す	園の生活に慣れ、安心して過ごす
		保育者と共に好きなことをして遊ぶ
		まわりのことに目を向け、興味や関心を抱く
		友だちや遊びの中で心を動かし、自らかかわろうとして一歩踏み出す
6月	見つける	好きな遊びをみつける
		まわりのことに気づく
		遊びの中や人との出会いの中で、新しい発見をする
		友だちの気持ちに気づき、自分の気持ちを表現しようとする
7月	楽しむ	木、砂、泥の感触を知り、親しむ
		夏の遊び、生活を親しむ
		心も体も開放して遊ぶ
		子どもの育ちを保護者と共にわかちあう
8月	ふれあう	夏のゆっくりした生活で、保育者、家族とふれあう
		暑い夏を元気に過ごす
		いろいろな人と出会い、心をかよわせる
		家族や保育者とのゆっくりした夏の生活を楽しむ
9月	ためす	興味の幅が広がり、いろいろな遊びを試してみる
		うつりゆく季節を楽しむ
		友だちと共にいることを喜び、体を充分動かして遊ぶ
		新しい発想や意欲を持って、試してみる
10月	考える	見たり、真似したり、試してみたりして楽しむ
		戸外で体を動かす心地よさを感じる
		遊びを展開する中で、工夫や試行錯誤をする
		さまざまなトラブルに対して自ら考えたり、協力して解決しようとする
11月	ふかめる	友だちや保育者とじっくり遊ぶ
		木の実、木の葉に触れて、秋の実りを感謝する
		秋の実りに感謝しながら、季節感を味わう
		アイデアを出し合って、相談し合って、遊びも友だち関係も深める
12月	喜ぶ	クリスマスを迎える雰囲気を楽しみ、喜んで待つ
		家族と連携を取りながら、健康を守る
		イエス様の誕生のストーリーをたどり、喜びを共有し、表現する
		隣人や世界にも目を向け、神さまから頂いた「愛」を分かち合う
1月	とりくむ	好きな遊びに夢中になって取り組む
		冬の自然に触れる
		子ども同士、また子どもと保育者が理解し合い、力を合わせる
		健康を保つための生活環境を身につける
2月	育ちあう	友だちや保育者と一緒に、生活を楽しむ
		寒い冬を元気に過ごす
		友だち同士、お互いの違いを認めつつ、助け合うことの喜びを感じる
		共通のイメージをもってそれぞれの役割を狙いつつ、遊びを充実させる
3月	感謝する	大きくなることを喜ぶ
		春の近いことをしる
		神さまのめぐみと見守りのうちに成長できたことを感謝する
		進級、入学に自信と希望をもってのぞむ

(キリスト教保育2010年4月号より)

ず、喜びと同時に自分の力のなさを知ることもある。その時に祈ることを知る者は、自分の力が尽きてもおしまいでない、神さまの愛に向かって繰り返し心を開き、神の愛の中を生きること。神さまの前では、私たちは幼子のような心を持ち、祈ることにより安心を

得ることになる。

2011年の主題は表2. の通りである。

2011年の年主題として、信じる—見えないものに目を注ぐ—、聖句として「わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます」コリントの信徒

表2. 2011年キリスト教保育主題

年主題 信じる—見えないものに目を注ぐ—

月	1歳～5歳児の月主題	1歳～5歳児の月のねがい
4月	安心する	新しい環境、友だち、保育者に出会う
		保育者に守られて、安心して過ごす
		友だちや保育者との出会い、神さまとの出会いに安心する
		心地よい環境の中で、自分の居場所を見つけ、園生活に期待をもつ
5月	動き出す	園の生活に慣れ、身近なことに目を向ける
		保育者と共に好きなことをして遊ぶ
		まわりのことに目を向け、興味や関心を抱く
		友だちや遊びの中で心を動かし、自らかかわろうとして一歩踏み出す
6月	みつける	好きな遊びをみつける
		まわりの人との関わりや遊びの中で発見する
		遊びの中や人との出会いの中で、新しい発見をする
		友だちの気持ちに気づき、自分の気持ちを表現しようとする
7月	楽しむ	夏の遊び、生活を親しむ
		水、砂、泥の感触に親しむ
		土・砂・水に十分に触れて、心も体も解き放って遊ぶ
		子どもの育ちを保護者と共にわかちあう
8月	ふれあう	夏のゆっくりした生活で、保育者、家族と触れ合う
		暑い夏を元気に過ごす
		いろいろな人と出会い、心をかよわせる
		家族とのゆったりとした夏の生活を楽しむ
9月	ためす	興味の幅が広がり、いろいろな遊びを試してみる
		移りゆく季節を楽しむ
		友だちと共にいることを喜び、体を十分動かして遊ぶ
		新しい発想や意欲を持って、試してみる
10月	考える	見たり、真似したり、試したりして楽しむ
		戸外で体を動かす心地よさを感じる
		遊びを展開する中で、工夫や試行錯誤をする
		さまざまなトラブルに対して自ら考えたり、協力して解決しようとする
11月	目を凝らす	好きなことをしてじっくり遊ぶ
		深まりゆく秋を体で感じ、秋の実りに感謝する
		気づいたことをもっとよく知ろうと考えたり、かかわったりする
		アイデアを出し合い、相談し合って、遊びも友だち関係も深める
12月	感謝する	クリスマスを迎える雰囲気を楽しみ、喜んで待つ
		友だち、保育者、家族と共にたくさんの恵みに感謝する
		イエス様の誕生のストーリーをたどり、喜びを共有し、表現する
		隣人や世界にも目を向け、恵みをわかちあう
1月	とりくむ	好きな遊びに夢中になって取り組む
		冬の自然に触れる
		結果を予測して考えたり、工夫したりする
		子ども同士、また子どもと保護者が理解し合い、力を合わせる
2月	育ちあう	友だちや保育者と共に充実した生活を楽しむ
		寒い冬を元気に過ごす
		お互いの違いを認めつつ、助け合えることの喜びを知る
		共通のイメージを持って、それぞれの役割を担いつつ、遊びを充実させる
3月	望む	大きくなることを知り、喜んで過ごす
		春をみつける
		神さまの恵みと見守りのうちに成長できたことを喜ぶ
		新しい生活に期待を持つ

(キリスト教保育2011年4月号より)

への手紙Ⅱ 4章18節を挙げている。

秋山 徹氏²⁾によると、“保育者として子どもの育ちにとって、何が大切かを見失うことなく、常に神さまの御心を問いつけることが大切である。そして、子どもの心に寄り添うことが大切であり、その中で、子

どものちょっとした言葉や振る舞いそれが内にあるとても大きな成長を示す「しるし」。それをみんなが共感して喜ぶ。「しるし」を読み取る心、保育者の目で見ることの大切さ、心の目が、心の耳が開いている人には見えたり、聞こえたりする。その心の目はどのよ

うにして開かれるのが保育者にとって大きな課題”
であると説いている。

2012年の主題は表3. の通りである。

2012年の年主題として、あふれる愛—小さきものと共に—、聖句として「愛する者たち、互いに愛し合いましょう」ヨハネの手紙Ⅰ、4章7節を挙げている。古谷健司氏³⁾による解説では、“私たちが愛するのは、神がまず私たちを愛してくださったからであり、そして、私と同じように他の人も愛しておられる、その気づきが私を不安や恐怖や憎しみから自由にし「自分だけ」から「他の人と一緒」へと心を開かせる。キリスト教の神さまの愛は、価値のない者を愛して価値のあ

る者としてくださるのが「愛」だ”と説いている。関わってくださる神さまが、私たちにあふれる愛を注いでくださる。保育という関わりつくりを保育者として大切なものとするのが大切である。

そして2013年の年主題として、あふれる愛、聖句として「信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中でも最も大いなるものは、愛である」コリントの信徒への手紙Ⅰ13章13節を挙げている。大串肇⁴⁾による解説では、“聖書を読んで役立つことは、悩みや悲しみを回避するのではなく、その「ただ中」でさえ、あなたは一人ではないよ、大きな存在がいるよ、という思いを受け取ることができる”とある。私

表3. 2012年キリスト教保育主題

年主題 あふれる愛—小さきものと共に—

月	1歳～5歳児の月主題	1歳～5歳児の月のねがい
4月	よろしくね	自分が受け入れられていると感じ、安心する
		新しい環境との出会いを喜ぶ
		新しく出会った友だちや保育者に親しみをもつ
		安心して園生活を過ごす
5月 6月	やってみようかな	園の生活に慣れ、安心して過ごす
		保育者と共に、好きな遊びを楽しむ
		好きな遊びをみつけ、楽しむ
		身近な友だちやものに関心を示す
		自分の気持ちを表そうとする
7月 8月	きもちいいな	身近な自然・生き物にふれる
		周囲のものに興味を広げる
		夏の遊びや生活を楽しむ
		暑い夏を健康に過ごす
9月 10月	おもしろいよ、 おもしろいね	生活体験や夏の行事を通していろいろな人に出会う
		生活の場を広げ、好きな遊びを楽しむ
		保育者や友だちに自分の思いを伝えようとする
		友だちと一緒に遊ぶことを楽しむ
11月	みつけた みつけた	思い切り体を動かして遊ぶ
		季節の移り変わりを感じ、身近な自然と触れ合って遊ぶ
		季節の変化の中で元気に過ごす
		秋の実りに感謝し、あじわう
12月	うれしいね なにができるかな	自分の考えを出し合いながら友だちと遊ぶ
		保育者の祈る姿を通して、祈りを感じる
		保育者や身近な友だちと喜んで賛美する
		クリスマスの意味を知り、喜びを分かち合う
1月	あしたもしようね	いろいろな人のことを思い、自分が出来ることを考える
		知っていることばを使って思いを伝えようとする
		保育者と保護者の豊かなつながりの中で過ごす
		友だちと思いや考えを伝え合いながら遊びを深める
2月	わあ、すごいね	健康に過ごすための生活習慣を身につける
		手や指を十分に使って遊ぶ
		冬の生活の中で元気に過ごす
		友だちと協力し、楽しく遊ぶ工夫をする
3月	ありがとう	お互いの違いを認めつつ、助け合えることの喜びを感じる
		自分でできる、自分でやりたいという気持ちをもって日々過ごす
		保育者同士の丁寧な連携の中で、安心して進級する
		自信を持って喜んで毎日を過ごし、新しい生活に期待を持つ
		神さまの守りの中で大きくなったことを喜び、感謝する

(キリスト教保育2012年4月号より)

キリスト教保育の現場における聖話のあり方

たちひとりひとりが愛されているという強い思いから、私たちの愛の業は始まるのであり、私たちが立派だからではなく、弱く無力だからこそ、神さまは私た

ちを愛し、必要な力を貸してくださる。幼き頃に大いなるものの存在と出会うことが大切である。

表4. 2013年度年間礼拝テキスト

年主題 あふれる愛

1学期

月	週	礼拝の主題	聖書テキスト
4月	1	よろしくね・嬉しい出会い	申命記6:5
	2	世界をお作りになった神さま	創世記1:1~31、2:1~4
	3	アダムとエバ	創世記2:6~25
	4	蛇の誘惑	創世記3:1~24
5月	1	よろしくね・嬉しい出会い	ヨハネの手紙I 4:19
	2	父と母を敬え	エフェソの信徒への手紙6:1~4
	3	精霊がくだる	使徒言行録2:1~13
	4	ノアの方舟	創世記6:1~8:22
6月	1	やってみようか・うれしい出会い	ルカによる福音書2:52
	2	子どもを祝福するイエス様	マルコによる福音書10:13~16
	3	アブラハムの旅立ち	創世記12:1~9
	4	アブラハムイサクを捧げる	創世記21:1~7 22:1~19
	5	雨を降らせたエリヤ	列王記上17:1~18:46
7月	1	きもちいいな・夏を感じて	エフェソの信徒への手紙5:1
	2	お魚にのまれたヨナ	ヨナ書1:1~4:11
	3	ダビデとゴリアト	サムエル記上17:1~54
	4	ダビデとヨナタン	サムエル記上20:1~42
8月	1	きもちいいな・夏を感じて	エフェソの信徒への手紙5:2
	2	ナイル川に流されたモーセ	出エジプト記1:8~2:10
	3	神さまに召し出されたモーセ	出エジプト記3:1~4:31
	4	神さまとの約束	出エジプト記19:1~20:21

2学期

月	週	礼拝の主題	聖書テキスト
9月	1	おもしろいよおもしろいね・伝え合う遊び	レビ記19:18
	2	サムエルの祈り	サムエル記上3:1~21
	3	白髪は輝く冠	箴言16:31
	4	やさしいルツ	ルツ記1:1~4:22
	5	ソロモンの知恵	列王記上3:1~28
10月	1	おもしろいよおもしろいね・伝え合う遊び	ヨハネによる福音書15:12
	2	火の中の3人の少年	ダニエル書3:1~30
	3	ライオンと友だちになったダニエル	ダニエル書6:1~29
	4	インヌマエル預言	イザヤ書7:1~17
11月	1	みつけたみつけた・恵みへの感謝	フィリピの信徒への手紙4:6
	2	ヨハネ誕生	ルカによる福音書1:5~25.57~66
	3	4つの種	マルコによる福音書4:1~9.詩編126:5~6
	4	マリアへのお告げ	ルカによる福音書1:26~38
12月	1	うれしいね・わかちあい	ミカ書5:1
	2	野原の羊飼ひ	ルカによる福音書2:8~20
	3	東方の学者たち	マタイによる福音書2:1~12
	4	まことの光	ヨハネによる福音書1:9~14

3学期

月	週	礼拝の主題	聖書テキスト
1月	1	あしたもしようね・育ちあう仲間	エフェソの信徒への手紙4:16
	2	シメオンとアンナ	ルカによる福音書2:22~38
	3	最初の弟子たち	ヨハネによる福音書1:35~42
	4	カナでの婚礼	ヨハネによる福音書2:1~11
2月	1	あしたもしようね・育ちあう仲間	コリントの人への手紙II 13:11
	2	イエスとニコデモ	ヨハネによる福音書3:1~16
	3	ベトザタの池で	ヨハネによる福音書5:1~18
	4	石で打たれた女	ヨハネによる福音書8:1~11
3月	1	おおきくなったよ・喜びに満ちて	ローマ人への手紙5:5
	2	ナルドの香油	ヨハネによる福音書12:1~8
	3	十字架にかけられたイエス様	ヨハネによる福音書19:17~30
	4	復活されたイエス様	ヨハネによる福音書20:1~23
	5	主は羊飼ひ	詩編23:1~6

(キリスト教保育2013年4月号より)

表5. 2013年度年間聖句

年主題聖句

信仰と、希望と、愛とこの三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である

(コリントの信徒への手紙 I 13章13節)

月	聖句
4月	あなたの神、主を愛しなさい。 申命記6章5節
5月	私たちが愛するのは、神がまず私たちを愛してくださったからです。 ヨハネの手紙 I 4章19節
6月	イエスは知恵が増し、背丈も伸び、神と人から愛された。 ルカによる福音書2章52節
7月	あなた方は、神に愛されている子どもです。 エフェソの信徒への手紙5章1節
8月	あなた方も愛によって歩みなさい。 エフェソの信徒への手紙5章2節
9月	自分自身を愛するように隣人を愛しなさい。 レビ記19章18節
10月	私があなた方を愛したように、互いに愛し合いなさい。 ヨハネによる福音書15章12節
11月	どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。 フィリピの信徒への手紙4章6節
12月	エフラタのベツレヘムよ お前はユダの氏神の中でいと小さき者。お前の中から、イスラエルを始めるものがでる。 ミカ書5章1節
1月	おのおのの部分は分に応じて働いて体を成長させ、自ら愛によって造り上げられていく。 エフェソの信徒への手紙4章16節
2月	平和を保ちなさい。そうすれば、愛と平和の神があなた方と共にいてくださいます。 コリントの信徒への手紙II 13章11節
3月	希望は、私を欺くことはありません。 ローマの信徒への手紙5章5節

(キリスト教保育2013年4月号より)

表4. 表5. のように、新しい年度ごとに主題、聖句があり、月ごとの讚美歌、聖句もきちんと示されている。毎週の「聖話」もきちんと示され、保育者理解のための解説もなされている。ここ数年、大きな変化はなく、キリスト教保育の幹はイエスであり、福音を伝えることを中心に、どのように子ども達に聖書の話し、「聖話」を行ったらいかというポイントも含んで解説がなされている。しかし、現場の新人保育者や未信者の保育者にとっては、難しく感じていることも事実である。

Ⅲ. 新人保育者・未信者の悩み

保育の世界に身を置き、ことにキリスト教保育における聖書の話しを聞く機会が初めてである新人保育者・未信者の保育者の多くが、子ども達に対して行う「聖話」が難しいと考えている。どのようなところに難しさを感じているのか整理すると、1. 伝えることの難しさ、2. 聖書についての勉強不足、3. 教訓や指導になっていないか等に分けられる。

事例1.

聖話の題「まいごのこひつじ」

この聖話は、やさしい羊飼いのおじさんと共に100匹の子羊が草原に散歩に出掛ける。夕方帰ろうと丘のふもとに子羊たちを集めて、一匹一匹数えていると、一匹いないことに気が付き、羊飼いは谷底まで、迷子になったこひつじを探す。やっと見つけて胸に抱きかかえて、みんなの待っている丘のふもとに戻り、「さあ見つかったよ、みんな安心しておやすみ」という、イエスが語ったたとえ話である。

新人保育者は、この話を伝えることに一生懸命になっていた。こひつじが小鳥の声の所在を確かめようと声のする方に駆け出し、そこに咲いているきれいな花に気を取られ、小川に流れる魚と戯れていたことを集中して話してしまった。聖話が終わると、子ども達はすぐに、羊飼いが探している間、99匹は？という不安も生まれてしまった。ここでは、神さまは、この羊飼いのおじさんのように、わたしたち一人ひとりを守ってくださるのですよとイエス様がおっしゃいました。ということ子ども達に伝える聖話であるが、99匹が気になるのである。そして、自分勝手に遊びに行っただけに・・・ということが伝わってしまったのである。そこで、聖話のポイントを整理すると、99匹を置いていくことは1匹を探すためであるが、年齢に応じて、3歳には、1匹をフォーカスして話し、4歳児には、仲間の羊飼いに頼んで出かける、5歳児には、99匹も1匹も神さまは、どちらも大切に守ってくださっていることを含んで話すと、子どもの不安はなくなると思われる。新人保育者は、物語を伝えることに懸命になり、神さまが本当に伝えたいことの難しさを感じている。

事例2.

聖話の題「アダムとエバ」

天地創造の最後の日に、神さまは人間をつくられま

した。神さまのお作りになったものを大切にお世話をすることが出来るようにである。人間にももの考える力と、神さまを信じる心をくださいました。世界の一番はじめの人間に「アダム」という名前をつけられ、一人ではよくないので「エバ」をつくられました。しかし、蛇に「善悪を知る木の実」を食べるようにそそのかされ食べてしまい、二人とも裸であることが恥ずかしいと神さまから隠れてしまう。しかし子ども達には、食べるようにそそのかした蛇に対して、神さまは、地面を這い回り、ちりを食べて・・・というところが強く伝わってしまい、「悪いことをしたら、神さまから罰を与えられてしまう、悪いことはしないようにしましょう」と語ってしまったのである。天地創造からエデンの園までの事実として伝えることだけでよかったのではないかと思われる。神さまは、決して罰はお与えにはならないからである。教訓的に聖話を語ることとなってしまった例である。

事例1. 事例2. 双方ともに伝えることの難しさがあげられる。

「新キリスト教保育指針」のなかで、キリスト教のねらいが6点挙げられている。

1. 子どもが、自分自身を大切なひとりとして受け入れていることを感じ取り、自分自身を喜びと感謝を持って受け入れるようになる。
2. 子どもがイエスを身近に感じ取ることを通して、見えない神の恵みと導きへの信頼感を与えられ、「イエス様と共に」毎日を歩もうとする思いを持つようになる。
3. 子どもが、互いの違いを認めつつ、一緒に過ごす努力をし、そのことを喜びとするようになる。
4. 子どもが、心を動かし、探求し、判断し、想像力をもち、創造的にさまざまな事柄に関わるようになる。
5. 子どもが、私たちの生きる自然や世界を神による恵みとして受けとめ、それらの事柄に関心をもち、自分たちの出来ることを考え行うようになる。
6. 子どもが、してはいけないことをしようとする思いが自分の中にあることに気づき、そのような思いに負けない勇気を持ち、行動するようになる。

以上の「キリスト教保育のねらい」に照らし合わせると、事例1. は、1. の子ども自身が大切なひとりとして受けとめ、自分も友だちも、こひつじも神さまが作ってくださった大切な命である。どちらも平等に神さまは守ってくださっています。そして、守ってくださっていることに、感謝する気持ちを育てる。「ほ

くも、わたしも、そしてこひつじもみんなを守ってくださって、ありがとうございます。アーメン」というメッセージが幹となると考える。

事例2. は天地創造～エデンの園では、キリスト教保育のねらいに照らし合わせると5. 生きるすべての自然、世界を神の恵みとして受けとめる。6. してはいけないことをしようとする思いが、自分の中にあることに気づき、そのような思いに負けない勇気と行動が挙げられる。「～をしたら罰を与えられる」ではなく、ここでは、「悲しいことですが、誰にでも、よくないことをしようとする気持ちがあります。そのような思いに負けないように行動できますようにお守りください。アーメン」という幹になると思われる。

IV. 指導する側の悩み

キリスト教保育に長年従事している経験者、クリスチャンの保育者側では、聖話の指導にどのような思いがあるのだろうか。やはり、難しく感じており、概ね以下の3つに分類することが出来る。1. 聖書教育の時間が十分取れない。2. 聖話の内容の幹を絞ることの難しさ。3. 言葉で伝えることの難しさ。が挙げられる。「聖話」が時として、しつけ、教訓的に使われ、福音を伝えることが難しく感じられ、「～だから～しましょう」「～しなければ～である」といった表現になってしまうことも挙げられる。

事実のみを伝えることに焦点をあてて、視聴覚教材の導入、園長、主任、牧師による聖書教育の時間の充実を図り、キリスト教保育の「聖話」について指導をおこなっている。

ここで、A市内のキリスト教保育者の試みを紹介する。「聖話」をノンクリスチャンが行うのは大変難しいので、無理にさせようとはせずある試みを行った。それは、毎週の礼拝時の「聖話」を神学生に行ってもらうという試みである。この園では、保育者は保育のプロであるが、キリスト教のプロではないので、その役目は、クリスチャンである、園長、主任、そして牧師の働きが大きいと認識しているものである。教師全員で神学生が話す「聖話」を子どもの心になって聞くことに徹していた。短い「聖話」を何度も何度も聞くことに時間を掛け、「大いなるものの存在を知る」ことを、子どもと同じ目線で聞くことに入口があると考えて行っている。この試みは、神学生にとっても、よい学びの時となった。大人に説くよりもはるかに、子

どもにわかるように話す方が難しいからである。子どもが理解できなければ、大人は理解できないからである。短い「聖話」を何度も聞くことから始めるキリスト教保育に、福音を伝えるメッセージが詰まっている。また、ある面では、どんなに「聖話」が大切かと話しても、聞く耳を持った保育者でないと伝わらないという難点もある。

保育者として、キリスト教保育の教育現場に採用された者は当初、礼拝のみがキリスト教保育と受け取る場合がある。しかし、キリスト教保育は、賛美歌、「聖話」だけではなく、もちろん礼拝だけではない。一日を通しての歩みが、キリスト教保育であるからである。一日の保育全体が、神さまに喜ばれる生活がなんであるかを感じることが大切だと考えるからである。保育者がキリスト教を信仰していなくても、神さまへの深い感謝と信頼をもって礼拝を守る姿勢が大切である。それは、子どもへと伝わっていくからと考える。と同時にクリスチャンである保育者の姿勢、礼拝の守り方は、自然と新人保育者へと、よき証となって伝わっていくと言える。心を整える、静寂の中を祈る、賛美、「聖話」、献金、礼拝の順序を考え、毎日行う礼拝を形式化しないように心掛けることも大切と考える。

V. まとめ

新人保育者・未信者の保育者が行う「聖話」は、聖書に基づいて、事実を話すことがポイントである。「わたしはよくわからない」と思うところから始まるが、狙いをさだめて枝葉をそぎ落とし、脚色や協調をすることなく、静かに語ることを心がけることから始めると、子どもの心にじんわり、じんわり染み込んでいく

であろう。しつけ、教訓ではなく、あくまでも、福音を伝えることに集中することを心掛けるとよいであろう。それらは、主任、園長、牧師のサポートがあって初めて、子どもの心に残る「聖話」となるであろう。信仰を持っていないものであっても、「神さまのお話し」をする者として、子どもの前に座った時から、子ども達は、保育者のしぐさ、様子を観察している。そしてそれらを模倣する。その中から、神さまの存在、大いなるものが伝わっていくのである。

また、信仰を持って保育にあたっているものは、未信者にとって、目の前の学びの姿となる。保育者が神によって生かされ、イエスに信頼しつつ歩もうとする喜びに満ちた姿勢を持つことが大切であろう。穏やかな応答、一人ひとりの子どもに温かいまなざしを持って接し、さわやかな表情を持って子ども達を包みこむ。神さまが私たちを愛してくださったように、私たちも愛し合い、神さまから肩をとんとんと叩かれたとき、「はい、神さま、私はここにあります。」と答えることが出来る保育者、そんな保育者を目指して行きたい。

参考文献

- 1) 大澤秀夫. 2010年4月号. キリスト教保育16-17pp
- 2) 秋山 徹. 2011年4月号. キリスト教保育16-17pp
- 3) 古谷健司. 2012年4月号. キリスト教保育16-17pp
- 4) 大串 肇. 2013年4月号. キリスト教保育16-17pp
 - ・キリスト教保育2010年4月号～2013年6月号
 - ・キリスト教保育指針
 - ・松隈玲子. 2003年神さまのおはなしをかせて
 - ・旧約聖書

How to Tell the preschoolers Bible Stories: Stories of God that Impress Children

Hiromi Matsuo

<Abstract>

In preschools where Christianity underlies their education, we hear that it is very difficult for new and non-Christian teachers to tell preschoolers Bible stories in the worship services. Experienced preschool teachers, as well as devout Christians, are worried about the way to tell the education based on Christianity. There are, however, various ways.

In this paper I would like to put those problems in perspective and reflect on “the Bible stories”. I have collected some stories of God which have impressed preschoolers. Referring to the trials by preschool teachers in a city, I describe what is important for preschool teachers who give instruction based on Christianity.

Keywords: preschool education based on Christianity, worship service, Bible stories,
new preschool teachers, stories of God